



環境公共 通信



第34号 平成29年5月
発行／環境公共推進会議事務局
〒030-8570 青森市長島1-1-1
青森県農林水産部農村整備課内
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

■最近の話題

あおり型ほ場整備低コスト化推進事業の取組

青森県では、水田農業の省力・低コスト化と高収益作物への転換を促進するため、水田農業の大区画化と排水改良などのほ場整備に取り組んでおり、生産者からも多くの要望が寄せられています。

限りある予算の中で多くの要望に応え、ほ場整備を推進していくためには、明確な「地域営農ビジョン」と「事業計画」を作成し、それを実現させるために最適な基盤整備を選択することが大切になります。

このため、県では、あおり型ほ場整備低コスト化推進事業により、現場条件に合った県独自の整備基準を作成するとともに、その基準をもとに整備費用の低コスト化に向けた農家向けのパンフレットを作成しました。

パンフレットでは、水田農業の目指す方向や、低コスト化と地区事情を踏まえた最適な整備内容の事例を紹介しています。

パンフレットは、生産者が立ち寄る機会の多い土地改良区や市町村等に配布していますので、興味のある方はお問い合わせください。



選択制	標準タイプ	大区画化タイプ	省力低コストタイプ	慣行転換タイプ
地域営農や 農産物	・水田農業 ・農家の収入向上 ・省力化 ・水田農業の持続可能性 ・水田農業の発展 ・水田農業の活性化	・水田農業 ・大区画化による省力化 ・大区画化による排水改良 ・大区画化による水田農業の発展 ・大区画化による水田農業の活性化	・水田農業 ・省力化 ・水田農業の持続可能性 ・水田農業の発展 ・水田農業の活性化	・水田農業 ・慣行転換による高収益作物への転換 ・慣行転換による水田農業の発展 ・慣行転換による水田農業の活性化
① 区画の大きさ	1haを標準	2haを標準	(整備済み)	(整備済み)
② 用排水路	コンクリート水路（排水路） （ベントンフォーム、排水溝など）	パイプライン水路（排水路） （管径20cm、管間距離10m、補助乳） （排水溝など）	コンクリート水路（排水路） （ベントンフォーム、排水溝など）	(整備済み)
③ 区画	区画幅員4.0m、区画長さ1.0m	区画幅員4.0m、区画長さ1.0m	(整備済み)	(整備済み)
④ 排水路	長さ50m、排水間隔10m	長さ50m、排水間隔10m、補助乳 （排水溝など）	長さ50m、排水間隔7.5m	長さ15m、排水間隔10m
⑤ 排水路	水田の場合で、排水溝15m	水田の場合で、排水溝20m	(排水溝有り)	(十分な排水溝有り)
平均的な工事費	1,400円/ha	1,940円/ha	604円/ha	210円/ha
整備基準	標準タイプ ・標準タイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。 ・標準タイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。 ・標準タイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。	大区画化タイプ ・大区画化タイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。 ・大区画化タイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。 ・大区画化タイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。	省力低コストタイプ ・省力低コストタイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。 ・省力低コストタイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。 ・省力低コストタイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。	慣行転換タイプ ・慣行転換タイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。 ・慣行転換タイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。 ・慣行転換タイプは、水田農業の持続可能性、水田農業の発展、水田農業の活性化を目的とする。

【パンフレット（抜粋）】

「うまい森 青いもりフェア」で環境公共を紹介しました

4月8日、9日の2日間、青森市にある青森県観光物産館アスパムで、東奥日報社主催の「うまい森 青いもりフェア」が開催されました。

今回は、「水と技が生む銘酒」をテーマに、県内の企業や団体が多数出店し、「環境公共」に関するブースも出店しました。

「環境公共」のブースでは、ほ場整備を実施して、ながいもやにんにくなどの高収益作物を生産している地区等の取組をパネルで紹介しながら、環境公共

（田んぼや畑の土地改良）の取組から生まれた、安全・安心な農産物や加工品等を販売し、多くの来場者に購入していただきました。



【環境公共のブース】

■「環境公共」事例紹介

みょうじんぜき

明神堰地区（十和田市）

～明神堰地区における環境公共の取組～

1 地区の概要

明神堰地区の用水路を流れる水は、主たる水源が湧水で、梅花藻の自生や鮭の遡上・産卵が確認されるなど、きわめて綺麗な水質です。

奥入瀬川に接続する本地区の用水路は、未整備であり、水路法面の洗掘が進行し、魚類の移動に支障を来す恐れがあることから、魚類の往来ができる環境の再生を図るため、平成26年度から里地里山・田園保全再生事業を実施して水路の整備を行っています。

事業の実施にあたっては、地域の環境を守るため、農業者はもとより地域住民、漁協等関係団体などの参画により「明神堰地区環境公共推進協議会」を組織し、水路改修計画について話し合い、地域と一体となって水路の保全・再生に取り組んでいます。



【整備前の水路】

2 活動内容

協議会では、水路を整備するにあたり、景観を損なわず、魚類・生物の隠れ場所を確保でき、植生の回復も可能なかごマット工法を選定しました。さらに、工事前後の環境の変化を把握するため、協議会が主体となり、地元の小学生や保護者とともに生物調査を実施し、「トミヨ族淡水型」「ドジョウ」「ヨコエビ」など多くの生き物を水路内に確認しています。

また、本地区はホタルの名所として有名であるため、平成27年度から平成28年度の2カ年で「中山間ふるさと・水と土保全対策事業」を活用し、ホタルの休息場所となる広葉樹の植樹を水路沿いに実施しました。



【生き物調査の様子】



【植樹活動の様子】

3 今後について

本地区の事業は平成28年度で完了となりましたが、協議会では、これまでの活動を今後の維持管理に活かし、水辺空間の保全・再生を図りながら、環境公共の取組を継続して推進していくこととしています。

「環境公共」HP <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>

